

5月号

農山村ネットだより

発行元

とよた都市農山村交流ネットワーク

代表 山本 薫久

豊田市桑田和町日面 71-1

tel・fax 0565-62-4011

セカンドスクール参加校、決まる！

小学校5年生の子達が農家などにホームステイして「暮らし」を体験するセカンドスクール。今年度も豊田市内の小学校の5年生が対象ということでしたが、昨年に続き古瀬間小学校(50人)、新規に五ヶ丘小学校(26人)に決まりました。両校5年生は76人。受入はもちろん「とよた都市農山村交流ネットワーク」(略称・農山村ネット)の農山村の方々。小原、旭、稲武、足助、下山の5地域に9月中下旬ごろ同時期実施を検討中とのこと。

畑の耕し、野菜の収穫、稲刈りなど季節ごとの野良仕事。時には炭焼きや人工林の間伐など山仕事。食事も手づくり五平餅、うどん、パン・・・と受入された人オリジナルなスローフード。鳥や虫や風の音、深い空と木々に囲まれた視界。真っ暗な夜の体験。夜の団欒。すべてが貴重な2泊3日。短い期間ですが、子どもたちに生きる力が更に宿ることを願って実施します。

22年度総会(43人参加)、4月20日に開かれる

市会議員さん、各支所や関係部局の市職員、県職員、観光協会など多くの来賓の方に見守られ、小原・旭・稲武・足助・下山地域会、交流市民の会から出席された会員さんが21年度の事業や決算、22年度事業計画や予算の審議に参加されました。

梶誠議長の進行もと、議案が無事可決され、いよいよ22年度がスタート。

セカンドスクールも2校の参加が決まり、また各地域会が中心となった交流事業も計画され、ひとまわり大きく広く都市と農山村の交流事業を展開します。

会員研修も昨年に続き、「農家力アップ、連帯力アップ」をめざし実施します。山里学校開催、ホームページ更新、あたらしいパンフレット作成など新しい仲間、応援団、交流相手の「開拓」に取り組みます。

山里で活躍する多団体と協働で開催する「農山村へのシフト」の集い(仮称)など農山村の過疎化をとどめ、農山村振興と持続可能な豊田市のために多くの市民に働きかけをします。

総会の最後に豊田市産業部部長の鈴木辰吉氏から「結成して1年余りで、実に様々な取り組みを成功させている。実にすばらしい。みなさんの知恵とアイデアと力を合わせたことの結果です。今、本当の豊かさとは何か問われている時代。そんな中『農山村に新しい風がふいている』と思います。共にがんばりましょう。」(主旨)という高い評価と力強い激励をいただきました。

足助地区

山里テツガク塾 開催



2010年1月から3月にかけて、哲学者の内山節さんを講師に迎え、互いに膝を交える距離でこれからの山里モデルを構想する全5回の講座を開催いたしました。受講生は、30名ほど。商店街で商売をされている方や、豊田の山里に住まれている方、豊田市街地・名古屋など都市からの参加者など、多様な方々が参加されました。特に第1回講座は立ち見客で会場が溢れるほどの大盛況となりました。会場も、足助の老舗旅館玉田屋や普光寺など、足助の魅力を感じさせる空間となっていました。農村の自然風土

が生み出した“日本の自然”について、都市と農山村の関係性とこれからの可能性について、農村の思想に今でも息づく山岳信仰について、山里の生業について、貨幣制度がもたらしたものについて…内山節先生の講和を聞きながら、関心に合わせてグループに分かれ、自主ゼミを開催しながら、一同で理解を深めていきました。

講座は終了しましたが、自主ゼミ「地域通貨」で語られた内容は、足助の若者が中心になり、米兌換紙幣「おにぎり通貨」として、形になりつつあります。「能書きだけじゃあかんど。行動がともなわなあかんど。」小澤庄一氏の言葉どおり、豊田の農山村から、さらなる「行動」が始まりつつあります。

下山地区

3月28日(日) 今年も植えたよ2010 in 三河湖

三河湖畔にて、約70名で桜・もみじ等の植栽を行いました。(10年～15年先を夢見て!)

当日は天候にも恵まれ、日頃から下山地域と交流を図っている三河湾浄化市民塾、平針スイミングスクール、安城市まちづくり市民会議環境委員会、NPO 法人アングルカフェ、岡崎水泳協会等の仲間と200本ほどの苗木を植栽しました。かなりの急斜面もあり子供達が心配でしたが、最初は恐る恐るの子供達も1時間も経つと跳びはねて、見ている大人がハラハラドキドキ。お昼にはすべて植え終わりました。その後昼食を取りながらシイタケの菌打ちを行い、子供から大人まで夢中で2,000コマを打ちました。(2年後に食べられるのを夢見て!)



植栽



シイタケ菌打ち

またこの日は会員の高田浩倫さん宅で、伊藤美也子さん、河合美保子さんがモミまきを体験しました。お二人は以前山里学校の生徒として手づくり工房山遊里にソーセイジ作り体験に参加されたことがきっかけで、1年を通して米づくりを体験することになりました。5月9日には仲間と10名ほどで田植えにいらっしやるそうです。(回を重ねる度に人数が増え、その中の何人かが下山にお嫁に来るのを夢見て!)

2つの交流事業で新年度がスタートしました。

旭地区

○「かんちく笹」を使った竹かごづくり



4月10日（土）豊田市杉本町の敷島会館で実施、8名の参加。遠くは鈴鹿市から参加、その熱心さに感動。

竹かごづくりの難しいところは、途中で竹が折れてしまうこと。竹のむきをかえたり、竹のウラから編んだり、編み方をかえたり、折れにくい方法を研究してきました。当日はその工夫を生かして挑戦。雑談する余裕もないほど一生懸命になって、講師とともにかんちく笹と格闘しました。終了時間までに、全員の方が作り上げ、完成の喜びを顔一杯にして、記念写真に。

今回の竹は、旭地区で調達できました。この竹はほとんどないと思っていたのに、普段気をつけているとあちこちに自生しており、長いものは4M、場所によって長さも太さも違うということも分かってきました。この事業を通し、ふるさとの再発見というか、認識を新たにすることができました。

○「すてきな春みつけ」山菜採りと草餅の会

4月24日（土）豊田市太田町の「福蔵寺」で実施。親子づれ、山菜に興味のある人25名の参加。晴天に恵まれ、太陽を一杯に浴びて、芽吹き始めた若芽や路傍の草花に春を満喫しながら、ワラビやコシアブラなどの山菜採りも楽しみました。

採った山菜は、天ぷらに。食卓を囲んで、タラ、コシアブラ、ウドなどの他、リョウブ、タカノツメ、カキドオシなどの天ぷらを味わっていました。

「リョウブが一番苦みが強かった。」「カキドオシは独特の香りがするけど、結構いける。」普段あまり口にしないものにも挑戦していただきました。



このほかにも、ワラビ、ゼンマイ、竹の子、コンニャク、セリのごま和え、里芋の煮付けなど、事前に調理した試食品がずらり。

天ぷらの後は、草餅付き。ぺったんこ、ぺったんこ、交代しながら杵を持つ人にみんなのかけ声がかかります。「臼でついた餅は、やっぱりうまいね。」ヨモギの香りを楽しみながら、あんこ、きなこ、ごま、おろし大根、砂糖など思い思いのものをつけて、腹一杯ほおばりました。試食品も天ぷらもすっかり無くなり、「楽しかった。」の音が聞かれました。おみやげは草餅とクレソン。楽しい一日となりました。

新年度も、がんばります。

まるっと山里稲武やろまい塾はじまる！

稲武地区

4月17日の第1回目は1家族3名の参加と少し淋しかったのですが、その分、畑の畝作りからはじまり、里芋、じゃがいも、ネギの植え付けとみっちり行うことができました。

2回目は5月23日（日）、山里 Cyafe（ちゃふえ）の田植え会と合同で行います。ご参加をお待ちしています。なお第3回目は6月13日（日）に「命をいただく」として、にわとりを絞めて、さばいて、そして食べるというプログラムです。なかなかできない体験ですので、こちらもぜひご参加ください。



問い合わせはどんぐり工房
0565-83-3838へ。

小原地区

4月20日に北部生活改善センターで猪肉の料理の研究と試食の会がありました。炊き込みご飯、汁、串焼、コロッケ、カレーなど盛り沢山のメニューがありどれもおいしかったです。5月5日には知人宅で丸焼きを食べる会があり100名以上の参加がありました。今まで食べた全ての肉料理の中で最高でした。猟師さんは実は石田流の師範なのですが、1つの罠で年間何十頭もたやすく獲るといいます。すご技をみんなで学びにゆきましょう！！また連絡します！



西村自然農園に連休中、交流居住センターの加藤さんの紹介で29才の男性が研修に来てくれました。パソコン仕事がメインの彼にとって慣れない畑仕事、料理、接客、掃除など早朝から夜遅くまで大変だったと思いますが、よく頑張りました。将来は田舎で暮らし、現職（リクルート系）を生かし、田畑を手伝いたい人と手伝ってもらいたい人を繋ぐ仕事がしたいそうです。ラグビーの社会人チームでも活躍中。こんな若者大歓迎！！

5月16日は西村自然農園の春まつり。みんなで石窯ピザを作って食べます。出展者、参加者募集中。同じく5月16日に矢作川自給村は山里学校の田植えです。

交流市民の会

やまさとに学ぶ 新しい生き方～山里学校 2010～

4月24日-25日と、山里学校2010 第1回講座を開催しました。会場は、あたたかい春の日差しが気持ちいい、小原地区・西村自然農園です。講師は西村文子さん。参加者は8名プラス、はるくん(5歳)。笑い声が絶えない、穏やかな2日間となりました。

4月は、ちょうど野菜の端境期(野菜があまりとれない時期)だそうですが、神様がそれを見越してくれていたように、たくさんの種類の山菜がとれます。西村さんの農園や裏山で、ワラビや灯台の芽、コゴミ、たんぼぼ、スギナ、ヨモギ、スミレ、菜の花などを、毎食の調理の直前に摘み、二日間かけて、手づくり豆腐や菜花こんにゃくなど、たっぷり朝・昼・晩食+おやつ+お土産の作り方を習いました。



泊まりの講座にしたことで、半日講座では味わえない「里山暮らしの一日」のリズムを体感してもらえたようです。

次回 5月16日(日)「いのちのみなもと 米とたんぼ」
小原*矢作川自給村稲穂の里 9:30~15:00
参加費500円昼食付 講師 池野雅道さん
問い合わせは、080-5306-4253(山崎)

会員募集中！

とよた都市農山村交流ネットワークでは会員を募集しています。

農林業体験希望者を受け入れてもいいかなあ。花木や昆虫のことなら聞いて！

農業はダメだと料理は自信があるわ。農家で泊めてあげるよ。炭焼きならできるんだけど…。

などなど、体験の受入れをしていただける方、お手伝いをしていただける方はご連絡下さい。

都市部の方でもOKです。いろいろな協力をお願いします。皆で一緒に楽しみましょう。